の厚サ一寸とかきてのけ、則其一尺四寸の幅、元來一尺四寸の風爐の座を客疊に出して爐を切たり、一枚疊の内、臺子の置目分切のける故、臺目切の疊、臺目かきの疊といふ也、柱なし臺目切も有、自由なれども柱有本式也、何茂五陽六陰のかねを用、秘事多々、口傳、

〔嬉遊笑覽一上居處〕茶室に臺目と云は、一疊を四ツに分ち一分減たるなり、堺にて藥種一斤を四分一減たるをだい目と云、文字可考といへり、按るに其大なる方を大目と云ならん、蓆にて廣狹あるなり、

〔茶器名物集〕三帖敷ハ、紹鷗ノ代迄ハ、道具ナシノ侘數奇專トス、唐物一種成トモ持候者ハ、四帖半ニ悉座敷ヲ立ル、宗易異見候、廿五年以來、紹鷗ノ時ニ同ジ、當關白樣御代十ケ年ノ内、上下悉三帖敷、二帖半敷、二帖敷用之、去ドモ珠光替ハ、ワラ屋ニ名馬ヲツナギタル好ト舊語ニ有時ハ、名物ノ道具、ソサウナル座敷ニ置タル當世ノ風體、猶以面白歟、〇略圖

此二帖半ノ事、紹鷗ノ時ハ天下ニ一ツ、山本助五郎ト云人紹鷗一ノ弟子也、其人ニ好テ茶湯ヲサセラレ候也、侘數寄也、〇略圖

細長イ三帖敷、宗易大坂ノ座敷ノ寫也、但道具物茶湯ノ後者ハ仕也、侘數奇初心ナル茶湯ノハ無用歟、〇略圖

二帖敷ノ座敷、關白樣ニ有、是ハ貴人カ名人カ、扨ハ一物モ持ヌ侘數寄カ、此外平人ニハ無用也、又宗易京ニ一疊半ヲ始テ作ラレ候、當時珍敷コト也、是モ宗易一人ノ外ハ如何、〇略中

山上京二、大坂ノ座敷、細長三疊ジキ也、右座敷ノ指圖六ツ仕候、此外作事ハ百ハ百ナガラチクチク替者也、當世ハ大形此一書ノ通歟、〇略中

一二疊半、三疊敷、細長三疊敷、大方同作也、少ヅヽ替事ハ作次第、

〔茶道筌蹄一〕小座鋪之部